



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2010. 11. 01

第 54 号

今年度の聖句

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。

何事も愛を持って行いなさい。

コリントの信徒への手紙Ⅰ 16章 13-14節



音楽を通して

中学高等学校 校長 星野晴夫

楽を通して神様を賛美できる事は大きな喜びでした。特に卒業礼拝では毎回卒業生の新しい人生の上に神様の導きがある事を祈りつつ奏楽曲を準備してきました。

さて、クリスマス礼拝に高校生全員で歌う「ハレルヤ」の合唱は前任の故平瀬先生の頃から今日も引き継がれています。毎年2学期末の多忙な時間を縫って全学年を相手にしての練習は中々エネルギーを要し、始めの頃は毎年冒の痛くなる思いでしたが、懸ける労力の割には生徒の積極的な態度や満足な歌声が出ず、聖書科の藤川先生にやめる事を相談した事がありました。しかし先生の「この大切な行事はやめるわけには行きません」との声に押し出され新たな気持ちで向かった所、生徒たちの歌声が変わってきました。ある時、当時高校教頭の故中野修作先生から「この歌声を校内の人にしか聴いてもらえないのは本当に勿体ない。どこかの演奏会場で聴かせたいのう。」と言って頂けるまでになり、女学院生の持つ能力と可能性の素晴らしさに目を開かれる経験をし、教師の取り組む姿勢の大切さを教えられました。

今年から校長となり今までとシフトが変わりましたが、中高生一人一人に神様から与えられた素晴らしい力を引き出し伸ばしていくために、常にチャレンジを忘れない学校でありたいと願っています。皆様の祈りと応援をどうぞよろしくお願いいたします。広島にお寄りの節はどうぞ新校舎等を見学に気軽に訪れてください。(案内させていただきます!)

同窓会東京支部の皆様こんにちは。この4月から
中学高等学校の校長に就任しました。

こうして紙面を通して皆様にご挨拶出来ます事を、
うれしく思っております。

私が広島女学院で勤めさせて頂くようになっては
や32年が過ぎました。音楽大学の卒業に際して就職
か更なる勉強かと迷いましたが、大学4年間のパイ
プオルガン(教会音楽)の勉強はまだ始まったばかり
の思いから、公立高校の誘いをお断りして思い切っ
てドイツに留学しました。その頃、故田中一郎校長
先生は、旧高校講堂(現ゲインズホール、チャペルの
あたり)にボッシュ社のパイプオルガンを設置されま
した。先生は音楽の教員を募るにあたってオルガン
奏者と合唱指導の出来る人材をと、私の恩師であ
ったエリザベト音大の故ボーン先生に相談され、そ
こからドイツにいた私に声をかけて頂きました。光
栄なお話に大変喜びながらも、これは神様の御心だ
ろうかと祈る日々を過ごした末、お受けする事に
しました。初任の緊張と、女子生徒ばかりの初め
ての環境で戸惑う事も多くありましたが、授業や
クラブ活動で接する生徒たちの明るい雰囲気のお蔭
で慣れていくことができました。そんな中、日々の
礼拝や、クリスマスなどの特別礼拝でオルガンの奏

報告

関東ブロック主催

2010 夏雲の集い

去る7月15日（木）、千葉県佐倉教会で、今年で23回目となる「夏雲の集い」を行いました。

佐倉教会の黒田直人牧師の司式による原爆死没者追悼礼拝では、聖書の「出エジプト記」（13章17節－22節）に基づき、「我らに先立つもの」という題でメッセージをいただき、続いて、牧師夫人で同窓生でもある黒田尚子さん（丸本／高30）のオルガン演奏で、J. S. バッハ作曲「神の時はうるわし」など4曲を聴かせていただきました。



その後の茶話会では、広島からいらしていただいた長尾学長と塩冶副会長も交えて、しばし女学院パワー溢れる歓談の時を持ちました。長尾学長からは、廣瀬ハマ子先生との深いご因縁が感じられるお話や、学長を引き受ける決心をなさった際のお話などを聞かせていただき、私達も同窓生として女学院のためにできることをさせていただこうという思いを強くしました。お天気も交通の便も心配していましたが、青空の下、予想を上回る50名以上の参加があり、担当の千葉支部の皆さんのお働きで、とても温かい集いとなりました。（坂下 恵）



山澤かよ子先生写真展

前号で訃報をお伝えした恩師 山澤かよ子先生の遺作展が、「70 歳からはじめた写真展 ― 山澤かよ子を偲んで」として8月28、29日に小田急線狛江駅前の「泉の森会館」で開催されました。お好きだったという富士山やお花、動物などのすば

らしい写真40点が展示され、たくさんの方が来場されていました。主催された山澤先生のご長男や前号の記事を寄稿してくださった津村昌子さん（石村/高5）にもお目にかかれました。

（坂下 恵）



プラハ チェロ ファミリーコンサート

黒瀬理事長が実行委員をなさっていた“プラハチェロファミリー”の初来日チャリティーコンサート「平和への祈り・核の無い未来へ」が7月30日に広島女学院ゲーンズホールで行われた。ヴラダン・コチさんは、プラハ室内オペラの首席チェリストを務めていたが、1988年、「チェロを武器に代えて戦争をすることはできない」と兵役を拒否し、そのために収監されることになった。その後1989年のビロード革命で、世界人権擁護連盟アムネスティーインターナショナルにより解放され、現在はチェリストとして活躍しながら、プラハ音楽院教授として教鞭をとっている。ハナ夫人、息子のトーマス、娘のルツィは、それぞれソリストとしても活動しているが、ファミリーとしてのコンサートはボランティアで世界中を回っている。広島原爆ドームが1915年、チェコ人のヤン・ルツルによって設計されたことを知っていたコチファミリーの、どうしても広島で演奏したいという希望がかなったのコンサートだった。

当日は、ゲーンズホールいっぱいの立ち見も出るほどの人出で、『G線上のアリア』『ツイゴイネルワイゼン』また、日本の『浜辺の唄』などおなじみの曲を素晴らしい音色で聴かせてくれた。とりわけ、オリジナルアレンジの『赤とんぼ』は、こんなに美しい旋律であったかと改めて感じ入り、胸がいっぱいになった。コチさんの人柄のにじみ出た心に響く演奏会だった。（瀧口京子）



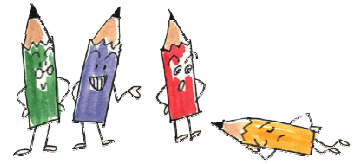
“祈りのチェリスト”
ヴラダン・コチさんとその家族
プラハチェロファミリー
初来日チャリティーコンサート

平和への祈り・核のない未来へ
（愛・平和・自由・命・尊敬）

広島公演
日時／2010年7月30日（金）
18:00（開場）18:30（開演）
場所／広島女学院ゲーンズホール

《主催》ヴラダン・コチ チャリティーコンサート広島実行委員会
※チケットは広島県広島市東区人形町1-1-1 広島リーボランドビル10F 10F0101-10010101
TEL 082 252-8284 FAX 082 252-8285 E-MAIL info@pragacellofamily.jp

※このコンサートの寄付金は、広島市原爆ドーム・ドームの修復費やアンチナプーム設計の普及費用に使われます。



音楽を通して 人に寄り添う

根本 尚恵 (久保田／高23)

私が故郷、広島を離れ、いわきに嫁いで、30年が経ちました。今は、夫、二人の息子、私の母と家族5人の日々の暮らしと、ささやかな音楽活動続ける毎日です。

小さい時から歌うことが大好きだった私は小学生時代、児童合唱団に入り、毎週ラジオ放送に参加し、たくさんの童謡や唱歌を歌いながら過ごしました。

女学院中学校に入学してからは、讃美歌を歌うことが大好きになりました。今でも、私の音楽の根っこは童謡と讃美歌だと思っています。

高校に入学してからは、合唱部に入り、平瀬雄子先生の御指導を受けました。メサイヤのコーラスを歌いながら、いつか、あのソロを歌えるようになりたいと夢を描いたのは、この頃です。平瀬先生にピアノと声楽のレッスンをしていただいて、国立音楽大学に進みました。

音大卒業後は、女学院中学、高校で講師として教壇に立たせていただきました。授業と高校合唱部の指導を担当し、クワイヤのアメリカ演奏旅行にソリストとして同行させていただきました。母校でこうした経験をさせていただいたことは、本当に幸せなことでした。

卒業後も、平瀬先生の所に通い、もう一度、発声を学びました。厳しく、熱のこもったレッスンを受け、大変充実した時間でした。夢見た日から10年、メサイヤのソリストになるという夢は叶いました。レッスンを離れると、先生と一緒に料理学校に通ったり、お買い物に行ったり、楽しい時間も過ごしました。先生には、音楽だけでなく、私が物事を判断する上で大切なことをいろいろ教えていただきました。先生の御指導がなければ、今こうして音楽を続けている私はいなかったと思



います。言い尽くせない感謝と懐かしさを込めて、ピアノの傍らには、いつも、先生の笑顔の写真があります。

現在、私がいわきでおこなっている活動の一つは合唱の指導です。毎週月曜日が練習日の月曜コールという女声合唱団の指導は20年になりました。メンバーは40代から70代の主婦の皆さんが25名。2年に一度、定期演奏会を開きます。主婦が、家庭、子育て、時には介護の合間にこうした時間を作ることは容易ではありません。歌うことが決して当たり前の事ではないこと、歌えるということの幸せを改めて感じました。歌の翼が運んでくれた良き仲間たちです。



定期演奏会（2010年6月19日）にて

もう一つの活動は音楽療法のボランティアです。15 年位前から大学の講座や学会の講座を受講して勉強を続けています。(ちなみに、日本音楽療法学会の理事長は、日野原重明先生です。)

障害のある子供さんの施設でのセッションは、年齢も障害の種類も様々で、初めは戸惑うこともたくさんありました。多動だった子が、静かに音に耳を傾けるようになったり、耳ふさぎをしていた子が、そっと楽器に手をのばしてきたり、ダウン症の子が、音楽に合わせて、楽しそうに体を動かしたり、うれしい変化が見られるようになりました。音楽があつて、笑顔があつて、時に集中して、時に発散して、私自身にとっても、とても貴重な時間です。

ある高齢者デイケア施設でのセッションでした。桜の季節でしたので、最後に滝廉太郎の「花」を独唱しました。歌い終わったとき、あるクライアントさんから、「あんたの歌を聞いていたら、お江戸の桜が見えるようだったよ。」と声をかけられました。うれしくて、有り難くて、帰り道、涙が止まりませんでした。音楽を続けてきて、歌を歌ってきて、本当に良かったと心から思いました。

これからも、音楽を通して人に寄り添う、そんな活動をしていきたいと思っています。その気持ちの源にあるのは、「我らは神と共に働く者なり」という女学院で学んだ言葉です。

合唱が大好きなメンバー



ハーモニーがたまらない

女声合唱団 月曜コール

共感する思いを紡いでいく。歌いながら言葉や旋律に傾け、ほろりと涙することもある。曲者が女声曲に編曲し、月曜コールが初めて女声合唱として歌う。入場料は1000円。問い合わせは中尾会長に電話090(5260)6178。

毎週月曜日の午前、常盤公民館の展示ホールには女声合唱が響きわたる。女声合唱団・月曜コールだ。昭和50年に発足し、会員は中尾眞枝会長を中心に40〜70歳の21人。根本尚恵さんが指導する。みんな歌が大好き。合唱の魅力を一人では頼りなくても、細い糸をよみ合わせるように集まって醸し出すハーモニーがたまらない。

と中尾会長。母であり、妻であり、子どもでもある会員21人が「津和野」を中心に18曲を披露する。混声曲の「津和野」を、作

6月19日午後2時から、市文化センターで定期演奏会を開く。ふるさとがテーマ。4部構成で、阿・安野光雅・曲・森ミドリ・組曲「津和野」を中心に18曲を披露する。混声曲の「津和野」を、作

定期演奏会へ向け練習に励む

いわき民報(2010 年 6 月発行)より

高校23回同期会



七月八日、新橋の料亭「花蝶」で同期会をしました。十九人の参加でした。かつては、新橋一の名料亭と言われた「花蝶」ですが、料亭時代と変わらない風情で、伝統を生かした料亭スタイルのレストランとして蘇りました。日本画家、福井江太郎氏が描く襖絵に囲まれた優雅な時間を楽しみました。瀧口京子(白井)

「しょうえん」

白井京子（現・瀧口） 高23、文英5

小学校四年生からNHK広島放送児童劇団に入っていた私は、女学院中学に入学して、迷わず、演劇部に入った。二年生、三年生は恐ろしい先輩ばかりだった。同じ学年で演劇部に入ったのは、私と、柳沢陽子さんの二人だけ。はじめて彼女を見たとき、ハーフかと思ったほど色も白く、可愛い人だった。女子校向けの脚本も結構あるもので、私も、子役から、老け役のおばあさん、そしてまたあるときは、男装もしたり、裏方の小道具係をやったりといろんな経験をさせてもらった。恐ろしく見えた先輩も入ってみれば優しく、思慮深い人たちだった。その後、柳沢さんはプロの道に進み東映女優『一の瀬玲奈』として活躍した。私が二十四歳で上京して間もないころ、何十万人という人出の麻布十番祭りの中で偶然再会し、今も仲良くしている。もう、彼女は女優業を引退しているが、今も美しい。さて、話はまた、学生時代に帰るが、女学院大学に入ってから、もう女ばかりの演劇部は、遠慮したいと思っていたのと、ちょうど演劇部が活動していなかったのと、私は仲良しの山ちゃんや倉ちゃんと三人で広島商科大学の演劇部に入れて頂くことにした。牛田山から、当時の広島空港の奥にあった商大まで授業が終わると、山ちゃんのマツダコスモで毎日通った。よその学生なのに、商大演劇部は、皆温かく迎え入れてくれて、「しょうえん」メンバーとしてクラブ活動させてもらった。オリジナルの戯曲や、井上ひさしさんの『日本人のへそ』など、三、四回定期公演をやった。公演が近くなると、どちらの大学の学生なのか分からなくなるほど、商大に入り浸っていた。

その「しょうえん」が、今年、創立五十周年を迎え、三年前から計画し、九月に記念公演を行った。東京組は東京で稽古をし、私は、朗読を担当。公演前日に初めて青少年センターに全員が集まり、読み合わせをし、通し稽古をした。一回生から五十回生までのOBから現役の学生まで、みんな一緒に、ソートン・ワイルダーの『わが町』を公演した。舞台上には椅子しか置かず、小道具も持たず、全て演出家の采配によるこの有名な脚本。OBのプロの演出家、石本君は、セリフはすべて広島弁、衣装は全員、白と黒とカラーのTシャツ3枚、そして、下は七十歳の人も全員ジーンズ、それに本来は年老いた進行係という設定を大学二年生の現役生にやらせるという演出にした。一つの街の中で起こる色んな出来事、一人の女性の子供時代から

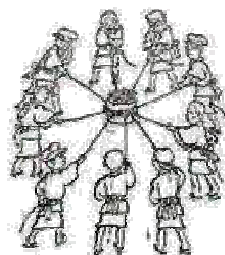
亡くなってお墓に入るまでのこと、町を出て行き久しぶりにその葬儀の為に故郷に戻ってくる人、それを広島弁でやるのはなかなか心にしみるものがあった。アンケートではとても好評のようだった。現役学生とOBが一緒に一つの芝居を作ったということは、素晴らしいことだったとしみじみ思う。

現役とOBと居て秋芝居

白井薔薇

広島秋から冬にかけてのこと

◆小さい頃、秋になると亥の子まつりというのがあった。子供が集まって、縄を巻いてある石を道路に打ちつけながら「亥の子、亥の子、亥の子餅搗いで、繁盛せい、繁盛せい」と大きな声を出す。旧暦十月の亥の日に行われる農村の行事で関西で盛んと、季語辞典にある。広島島の妹に問い合わせると、今でも子供会の行事としてやっているそうだ。



炉を開く二番亥の子の暖かき

虚子

面の眼に瞳のある亥の子鬼が来る

爽雨

薫ぼてを子等叩き行く亥の子宵

山田杏花

◆もう一つ、十一月には、商店街の売り出しなどをするえびす講があり、家族で街に出かけるのを楽しみにしていた。六月の「とうかささん」から浴衣を着て、えびす講から、こたつを出すと母などが言っていた。

歯切れ良き風に誘はれゑびす講

角川照子

おきななじみが大人に見えし宵えびす

白井薔薇

皆様からの投句をお待ちしています。

俳号

白井薔薇

俳句結社「童子」同人、日本伝統俳句協会会員

テレビ東京「サブちゃん」と歌仲間」に出演中

「半世紀以上カナダで反核・反戦運動を続ける被爆者」

ひと

半世紀以上カナダで反核・反戦運動を続ける被爆者

Setsuko Thurlow

セツコ・サーロー さん (78)



おいのことを考えると今も涙が止まらない。大好きだった姉の息子。1945年8月6日、広島市の中で被爆し、「焼けただれた肉の塊になって」死んだ。4歳。「プープー(水) ちょうだい」。それが最期の言葉だった。

自身も動員された軍の施設で被爆。閃光と体が宙に浮いたことしか覚えていない。意識が戻ったときは崩壊した建物に埋まっていた。

広島女学院大を出て54年に米国留学。新聞記者にシキニ事件について問われ、核実験を批判した。報道されると、非難の手紙が続々と来た。「日本に帰れ」。二度と話さないとも思ったが、悩んだ末に「語ることは使命」と決意した。

カナダ人と結婚、トロントに移り住む。被爆写真の展示をし、政府の核政策への意見広告を新聞に出し、高校の授業に核問題を入れさせた。長年の反核・反戦活動が評価され、2007年にはカナダの民間人に与えられる最高位の勳章「オールド・オブ・カナダ」を受けた。

原動力は、忘れられないおいの姿だ。「二度と繰り返してはいけない」という強い気持ちでわき起こるの。いまは自伝を執筆している。

「日本の若い人には、なぜあんなことが起きたのか、歴史の中で原爆をとらえてほしい」と願う。「ひどい、かわいそうと思う感情は大切。だけど、それだけではダメ。知識が必要。感情と知識がそろって物事を動かすことができる」

文・大久保真紀 写真・高橋正徳

セツコ・サーローさん (78 歳・英文科卒業)

広島女学院在学中に被爆。女学院大学卒業後、米国留学。カナダ人と結婚してトロントに移住。長年の反核・反戦活動が評価され、2007年に勳章「オールド・オブ・カナダ」を受けた。

「焼けただれた肉の塊になって」亡くなった当時四歳の甥の姿が原動力。「若い人に、歴史の中での原爆をとらえてほしい」と願う。

服部さち子さん (高25) ヌプリの会 押し花作品展 12/13 (月) ~ 19 (日)

聖路加画廊 (聖路加国際病院 1F)
地下鉄日比谷線築地駅より徒歩 5 分



<http://www.atorie-nupuri.com/>

森下峯子さん「赤松賞」受賞

森下峯子さん(増本/高 19、文英 1、大学院博士課程修了)が、本年4月に第39回「赤松賞」を受賞されました。「赤松賞」は多年にわたり女性の地位向上や地域社会の福祉ならびに世界平和に献身した人に与えられる賞です。

森下さんは高校時代より世界連邦運動に関わり、現在は、世界連邦運動協会の理事で、大学の英米言語文化学科の講師でもあります。

本誌第 52 号(本年2月発行)の「同窓生の輪(私の活動ー私の歩み)」をご参照ください。

隠地 妙さん 広島展覧会 報告

「9月30日からの7日間で250名位の方に見に来ていただきました。色々の方が作品のことを日本語で語って下さったことが、ここ5年上海、ポーランドで発表していた時と異なる温かさを感じました。展覧会のために描き続けたことで、今まで見えなかったことが見えるようになりまし。7月に南アフリカでいい出会いがあり、私の作品を毎年10点送ることになりました。これからも、良い絵が描けるよう、いい出会いを大切にしたいと思います。」

隠地 妙(高13)



隠地 妙 2010 展

敬老の日のカード

敬老の日に因んで、今年は八十歳以上の会費納入者の方々四十名にお祝いのカードをお送りしました。このカードは、浜井洋子さん(高14)から寄付して頂いたものです。





クリスマス会のお知らせ

2010 年 12 月 10 日 (金)

日本基督教団 銀座教会 (東京都中央区銀座 4-2-1)

JR「有楽町駅」中央口下車 徒歩 5 分

地下鉄「銀座駅」下車 C6 または C8 出口よりすぐ

有楽町線「銀座一丁目駅」下車 4 出口より徒歩 2 分

12:15~12:45 銀座教会の昼の礼拝に参加

13:00~15:00 祝会 (銀座教会5階“ぶどう”)

今年は、銀座教会の礼拝に参加させていただきます
祝会では懐かしい讃美歌をたくさん歌って、たくさんおしゃべりしましょう!

手作りお菓子のお土産もあります

他支部の皆さんもお誘い下さい お待ちしています!

... 讃美歌のピアノ伴奏のご奉仕をして頂ける方を募集しています ...

連絡先:03-5386-0740(坂下)



神奈川支部 クリスマス会

ティータイムコンサート (ピアノとヴァイオリン)

12月1日 (水)

13:30(受付13:00)~15:30

横浜ロイヤルパークホテル2F「ロイヤルアスコット」

会費:3,000円

申込先:梶川 045-821-4342 (FAX)

陣崎 045-974-6087 (TEL のみ)

Email: jyogakuin.kanagawa@gmail.com

〆切:11月22日(月)

※お子様連れ歓迎! (お子様会費 2,000円)

千葉支部 クリスマス会

12月6日 (月)

10:30(受付10:00)~14:30

新津田沼教会

礼拝:佐藤順子先生

(東洋英和女学院中学高等部元宗教主任)

礼拝の後、ランチ、お喋り、讃美歌

会費:1,000円

申込先:村中 043-266-3342

来年のお知らせ !!

関東ブロック主催

広島女学院創立 125 周年記念祝会

2011年 秋

品川プリンスホテル (予定)

会費:8000 円位

恩師をご招待して懇親会形式で行う予定です

同期生に声を掛けましょう!

~~~ 実行委員募集中 ~~~

